

令和6年度自己点検・評価の概要

(自己点検・評価報告会スライド資料)

令和7年2月28日



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学

- **第4期中期目標期間3年目**
- **「未来創生大学」に向けてのいくつかの顕著な成果**
 - **イニシアティブ棟竣工**
 - **高度情報専門人材**
 - **経済学研究科経営分析学専攻(MBAN)**
 - **地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業**
 - **人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業**
- **第4期中期目標の大きな項目**
 - **社会との共創**
 - **教育**
 - **研究**
 - **業務運営**

- **地域中核・特色ある研究大学施設整備事業**
 - イニシアティブ棟竣工
 - 最先端研究+アート
- **高度情報専門人材育成機能強化事業**
 - データサイエンス(DS)研究科博士前期課程定員を80名
 - 同時にDS学部の定員を150名
 - DS研究科担当教員を40名
- **経営分析学専攻の開設**
 - 定員を大幅に上回る入学生でスタート
- **地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業**
 - 地域が求める教師の育成
- **人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業**
 - 国際社会の期待にこたえるビジネス・インサイトを育成

- **大学独自の目標：データサイエンス・AIの社会実装の推進**
- **データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター**
- **国内最大規模の研究教育拠点**
 - **現在50名以上の専任教員**
 - ← **ハイレベル枠でさらに人員増、アート系教員も採用**
 - **そのうち4割近くは外部資金による採用**
 - **管理機能の強化：URAによる支援体制の確立**
 - **社会調査・EBPM研究部門の開設**
 - **学術論文や特許でも成果**

- **社会人のリスキリング**
 - データサイエンス研究科およびMBANへの企業派遣
 - 経済学部ビジネスサイエンスMOOCの充実
- **地方創生**
 - キャンパスのイノベーション・コモンズ化
 - 「データ アート&サイエンス」をキーワードとした事業の始動
 - 大学発ベンチャーの活躍
 - 滋賀大学ビジネスイノベーションコアリションを設立
- **周年事業**
 - 経済学部100周年(一昨年)
 - 教育学部150周年(今年)
 - 卒業生との連携を強化

- **全学的な学部のデータサイエンス教育の体系化**
 - 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定の実績
- **リベラルアーツ教育**
 - リベラルアーツ・STEAM教育研究センター
 - 「リベラルアーツ総合探究Ⅰ、Ⅱ」の新設
 - アントレプレナーシップセンター
- **学生へのサポート**
 - 留学支援
 - KINTOみらいファンド賞
- **生成AIの利活用**

- **データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター**
 - 個別課題の共同研究から、企業全体のDX支援へ
- **研究環境等改善費**
 - 競争的研究費の直接経費から研究代表者等の人件費を支出
 - 民間等との共同研究にもこの制度を適用
- **科研費申請及び獲得の支援**
- **学内の研究助成制度**
 - 地方創生プロジェクト研究の戦略的推進
 - 特に、データ アート&サイエンス関連のプロジェクト
- **コンプライアンス：研究不正や研究費の不正使用防止**

- **コロナ5類移行後の業務の正常化**
- **オンラインによる効率化とともに対面の機会の定例化**
- **情報インフラの充実によるDX化の推進**
- **図書館のオープンアクセス加速化事業**
- **附属学校園の改組**

- 未来創生リベラルアーツプログラム；全学共通教養第二次改革
 - ◆ 「深みのある知識の獲得」…【専門知との融合を強化】（DS×専門性に加えて）
 - ◆ 「創造力・構想力の育成」…【自律的動機づけ】（定食型からカフェテリア方式へ）

- ・ 科目新設

- 「リベラルアーツ総合探究Ⅰ」

- 分野横断型コラボ授業

- 「リベラルアーツ総合探究Ⅱ」

- PBL型グループワーク授業

- ・ 学生自身が学びをデザインし意味づける
- ・ 履修証明のデジタルバッジ付与

- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
全ての学部から初の「応用基礎レベル」修了生

- 教育改革の取組み

教育実践優秀賞（渡邊史准教授，金秉基教授，深谷良治教授）

FDセミナー「VUCA時代における分野の枠を超えた知識・教養の重要性」

リベラルアーツ・STEAMプロジェクト認定・助成制度

学生生活実態調査を通じてオンライン授業を受講した学生から7割以上の肯定的評価

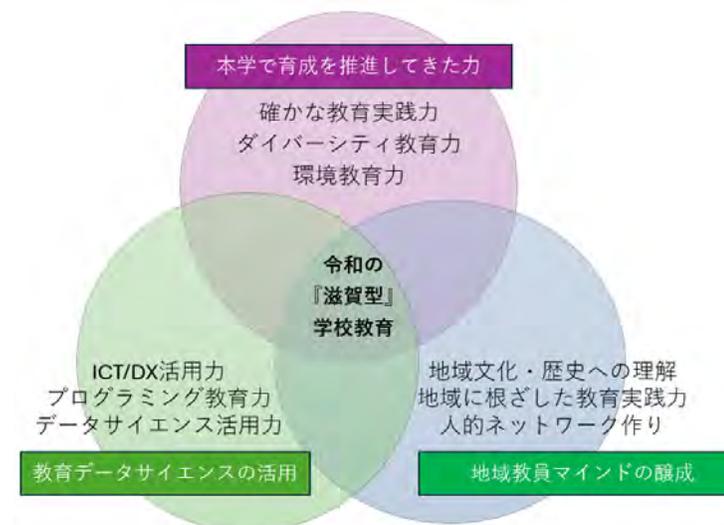
未来創生リベラルアーツプログラムのスケジュールイメージ



- デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業（経済学研究科・教育学研究科）
 - ・経営分析学専攻（**MBAN**）に11名（定員6名）入学
 - ・「教育データサイエンス人材育成プログラム」始動
- 人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業（経済学研究科）
 - ・国際社会の期待に応える新たな人文科学・社会科学系の高度人材養成モデルを構築
 - ・専門とDSに人文社会科学と海外プログラムを組み入れて**ビジネス・インサイト**を高める
- 地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業（教育学部）
 - ・地域が求める質の高い教師を継続的・安定的に養成
 - ・教育実践力・教育DS・地域教員マインド + 地域枠入試

★ 教育における課題

- ・未来創生リベラルアーツプログラム認定者の増加を図る
- ・学生の学びの**デザイン力の向上**を図る
- ・授業改善成果を周知して教育力の向上を図る
- ・文部科学省補助事業を着実に実施して成果を挙げる



地域教員希望枠事業の核心

- 学生の自主的活動をエンカレッジ
 - ・学長賞：2名、1団体を表彰
 - ・学生自主企画プロジェクト：7件中4件採択
 - ・KINTOみらいファンド賞：25件中11件採択

- 学生生活実態調査
 - ・「令和5年度学生生活実態調査結果を受けて（学生の皆さんへ）」を发出

- 学生生活における注意喚起
 - ・キャッシュレス決済とクレジットの正しい利用方法 等
 - ・熱中症対策講習会／危機管理講習会／衛生管理講習会 等

- ★ 学生支援における課題
 - ・学生教育を徹底して心身の健康維持・増進ならびに生活安全を推進する
 - ・自主的な課外活動を支援して、社会課題の発見・解決力及び未来社会の構想力を養う

学生は概ね大学生生活に満足している

	満足	どちらかと言えば満足	満足と不満のどちらとも言えない	どちらかと言えば不満	不満	無回答
教育学部	9%	50%	27%	0%	5%	9%
教育学研究科・専攻科	0%	0%	50%	0%	0%	50%
経済学部（昼間主）	26%	53%	13%	6%	0%	3%
経済学部（夜間主）	29%	57%	14%	0%	0%	0%
経済学研究科	33%	33%	33%	0%	0%	0%
データサイエンス学部	24%	52%	15%	6%	0%	3%
データサイエンス研究科	0%	50%	50%	0%	0%	0%

○ 研究力の強化に向けた規程等の整備

- ・滋賀大学卓越教員制度に関する規程（第1号を認定）
- ・滋賀大学博士研究員制度に関する規程
- ・滋賀大学フェロー制度に関する規程
- ・滋賀大学オープンアクセス方針ならびに同実施要領
- ・研究データ管理・公開ポリシーならびに同実施方針

○ 研究環境にかかる規定等の整備

- ・人を対象とする生命科学・医学系研究における人体から取得された資料及び情報等の保管に関する手順書
- ・有害事象等発生時の対応手順書

○ 研究支援

オープンアクセス化支援事業（APC補助）

競争的資金申請支援プログラム（URAによる研究計画調書の添削・個別相談）

学内研究助成（未来社会研究助成／研究スタートアップ助成／研究ユニット助成 等）

外部研究費による人件費等負担制度（研究環境等改善費／バイアウト）

★ 研究における課題

- ・支援の充実・組織化（支援人材の内部育成）と共同研究等を通じた研究力の強化（横展開）
- ・研究環境等改善費やバイアウト制度を活用した研究環境の改善を進めて研究時間の確保を図る

デジタル化と国際化



オープンサイエンス
研究インテグリティ

- 学術論文等の**オープンアクセス（OA）化推進**を支援
 文部科学省「オープンアクセス加速化事業」に採択
 機関リポジトリ関連業務の強化
 - ・「国立大学法人滋賀大学オープンアクセス方針」（令和6年3月）
 - ・「滋賀大学オープンアクセス方針実施要領」（令和6年12月）

- 学習環境の整備・支援
 図書・複写物取り寄せ費用応援キャンペーン
 学生対象の文献検索講習を開催

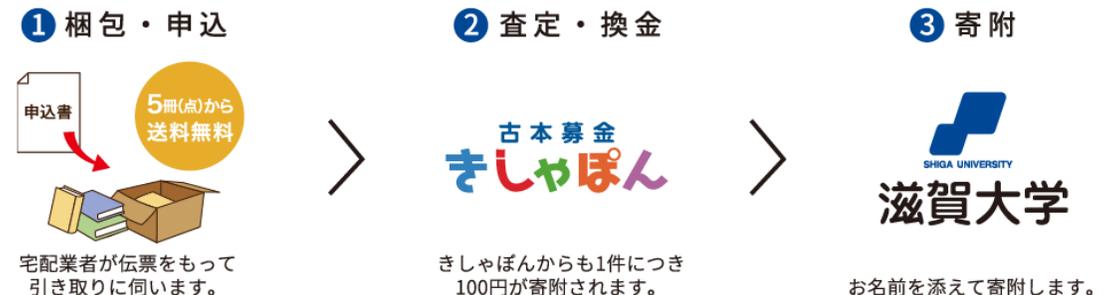
- **独自財源**の確保
 滋賀応援寄附（ふるさと納税）による寄附金の活用
 古本募金（本館・分館に各22,000円を配分）

- ★ 図書館における課題
 - ・レファレンス・サービス等の**学修支援**をさらに充実
 - ・**データキュレーション機能**を高める
 - ・図書館のさらなる利用促進を図る

新設したイノベーションベースとミーティングルーム



古本募金の仕組み



入試

- 学部入試の取組
年により増減はあるが十分な倍率を確保
受験生のニーズに応じた入試改革
- 大学院入試の現状と取組
教育学研究科：教育データサイエンス人材育成プログラムの開始
経済学研究科：経営分析学専攻の設置
データサイエンス研究科：昨年引き続き定員の増員
- ★ 課題
効果的で積極的な広報，入試ミスの防止



高大連携

- 取組
高大連携連続講座、大学・高校歓談会などの開催
- ★ 課題
IR室と共同した企画や立案，ICTを活用した高大連携の工夫



更なる国際交流の推進を目指して

協定校との交流

- ◇交換留学受入：每学期10名程度をコンスタントに受入れ
- ◇交換留学派遣：協定校へ4名を派遣
- ◇短期研修受入：ディーキン大学スタディツアー、チェンマイ・ラジャパット大学スタディツアー、マヒドン大学日本語研修等の受入れ
- ◇短期研修派遣：アメリカ語学研修、韓国語学・文化研修、イギリス研修、フランス語研修、オーストラリア研究、メキシコ語学・文化研修の実施
国際理解教育研修（教育学部主催）、シリコンバレー研修（経済学部主催）等の実施支援



- ◆チェンマイ・ラジャパット大学百周年記念式典に参加
- ◆啓明大学日本語学科の学生が経済学部阿部安成教授の授業を聴講

海外協定校の見直し・新規開拓

フロリダ大学（アメリカ）、スコピエ大学（北マケドニア）と学術交流協定の締結

- ・本学学生が交換留学に行きたいと思う大学の模索（英語圏の大学等）
- ・研究者等の活発な交流を目指す



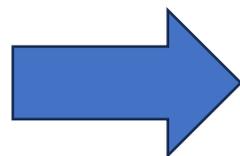
学生の国際交流への関心や国際感覚の醸成

- ◇学生参画型の学内セミナー：グローバルセミナーを開催
⇒ 学内外・国内外の講師（多種多様な分野）による対話型セミナー
- ◇協定機関であるCIEE京都からの受入留学生と本学学生、附属学校園児童・生徒等との交流
⇒ キャンパスの更なる国際化を目指して実施
- ◇海外研究者・学生の受入れ：大津キャンパスのグローバル人材育成・強化を目指し、交流会を企画実施
⇒ 教育学部の教職員・学生等を対象に実施



今後の方向性

- ◎本学学生に適した大学との交流の推進を目指す
- ◎英語による講義科目の増加等、教育カリキュラムの見直し → 英語授業担当教員の採用、CIEE科目
- ◎留学生受入の実質化（宿舎問題等）、キャンパスの国際化・留学生の多様化等への対応
- ◎ユネスコ・チェアへの獲得を目指す → 大学として教員の国際的な活動への支援



滋賀大学の国際戦略の策定 : 育成すべき人材像の確立

VISION

「大学の知を社会に実装し、地域に貢献する」

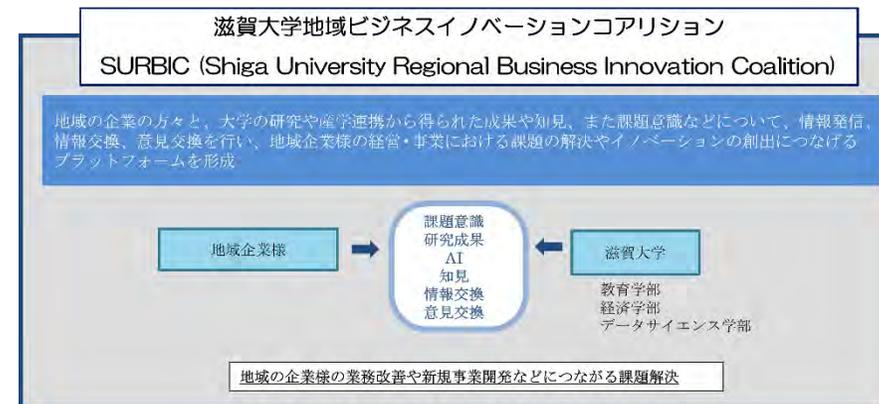
知の社会実装に向けた組織的な連携の強化

・企業等との連携の更なる拡大

令和6年は新たに8件の連携協定を締結

・滋賀大学地域ビジネスイノベーションコアリション SURBIC の設置

地域企業の経営・事業における課題解決やイノベーションの創出につながるプラットフォームを形成



スタートアップ創出に向けた取組

・関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC) への参画

滋賀大学スタートアップ創出プログラム (SSUP) を新設、起業支援人材 (高度専門職員) を配置

・アントレプレナーシップセンターの活動

全学共通教養科目「アントレプレナーシップ I・II」、プロジェクト科目「起業と資金計画を実践的に学ぼう！」の開講

起業相談会の開催、大学発ベンチャーの支援



プロジェクト科目



起業相談会

地域・産業界との連携

・社会連携コーディネーター

(株)商工組合中央金庫が新たに参画し、合計 7 機関に委嘱

・地域連携教育推進センターの活動

企業や行政、NPOなどのそれぞれが持つ強みや課題を題材にプロジェクト科目を開講（12科目）

・データアート&サイエンス

「滋賀みらい構想会議」を開催（3月）
アルスエレクトロニカ・フェスティバルへの出展（9月）

リカレント教育の推進

ウェルネスツーリズムプロデューサー養成講座、自治体経営戦略塾、公共経営イブニングスクールの開講

SDGsの取組

「滋賀大学×やまなみ工房アール・ブリュット展」、「滋賀大学サステナウィーク2024」、「子ども統計プログラミング教室—海と湖のSDGs—」開催



商工組合中央金庫との協定締結式



アルスエレクトロニカ・フェスティバルの様子



滋賀大学とHKB（平和堂・キンビール・ブリヂストン）との連携協定に基づく産学連携プログラムとして実施します。HKBが主催する「学歴の格差を高校生・大学生の両みこしの夢も応援！熱き高校生の地域活動支援」により市内高校生が考えたアイデアから選抜されたアイデアの実施に向け取り組んでいます。選抜されたアイデアは、地域連携推進センターがサポートします。
2月6日4校で行った最終審査会で優秀なものは、9月から加賀川に向けたプロジェクトをスタートします。表彰された学生はプロジェクトメンバーとして活動が予定しています。

POINT 1

企業や社会から必要とされるスキルや知識が学べる

POINT 2

企業人のトップによる審査会で発表ができる！

POINT 3

最終的に選ばれたアイデアは、貴校が考えた課題やサービスが社会で実現できる

開催	8月20日（火）・21日（水）・22日（木）2,3,4,5限	<p>事前エントリー 希望者は必ず 1のQRコードから エントリーしてください。</p> 
時間	8月23日（金）2,3,4限	
教室	7階教室	
単位	2単位 ※リベラルアーツ総合探究IIの単位になります。	
定員	20名程度 ※希望者多数の場合は選抜します。	
対象	全学級生	

問合せ：地域連携教育推進センター TEL:0743-27-1348 MAIL: hokugan@bivako.shiga-u.ac.jp

滋賀大学とHKB（平和堂・キンビール・ブリヂストン）との連携協定に基づく企業連携プロジェクト科目



滋賀大学×やまなみ工房アール・ブリュット展

第3期期首の1.1倍超

➡ 学生支援や教育研究に活用



◆ 「大学への寄附」の機運醸成

- ・ 滋賀大学ブランドの浸透
- ・ 寄附者のご意向に沿った寄附
- ・ 教育学部・附属学校150周年に向けた寄附活動
- ・ 寄附環境の整備

滋賀大学基金

大学全般に係る寄附 (一般基金)

国際交流等の学生教育・学習支援、産学公連携の推進、研究活動の促進・高度化等

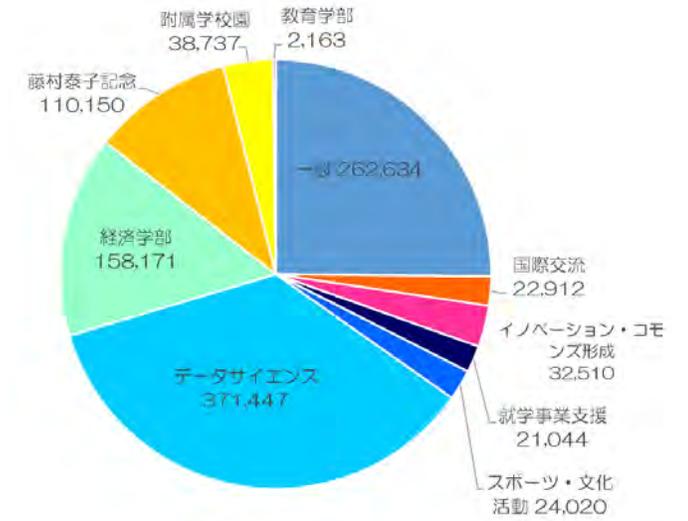
特定基金

修学支援事業基金	スポーツ文化活動基金	データサイエンス基金	経済学部基金	附属学校園いまを生きる基金	藤村泰子記念基金	データサイエンス・AIイノベーション・IT基金	教育学部基金
----------	------------	------------	--------	---------------	----------	-------------------------	--------

滋賀大学基金 目的・分野別寄附累計額

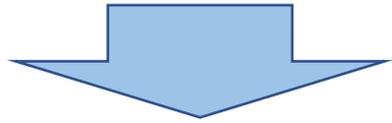


令和6年12月末
単位：千円



- コンセプト -

【 時代にチャレンジする滋賀大チーム
学生や教員等などが活躍する姿 】

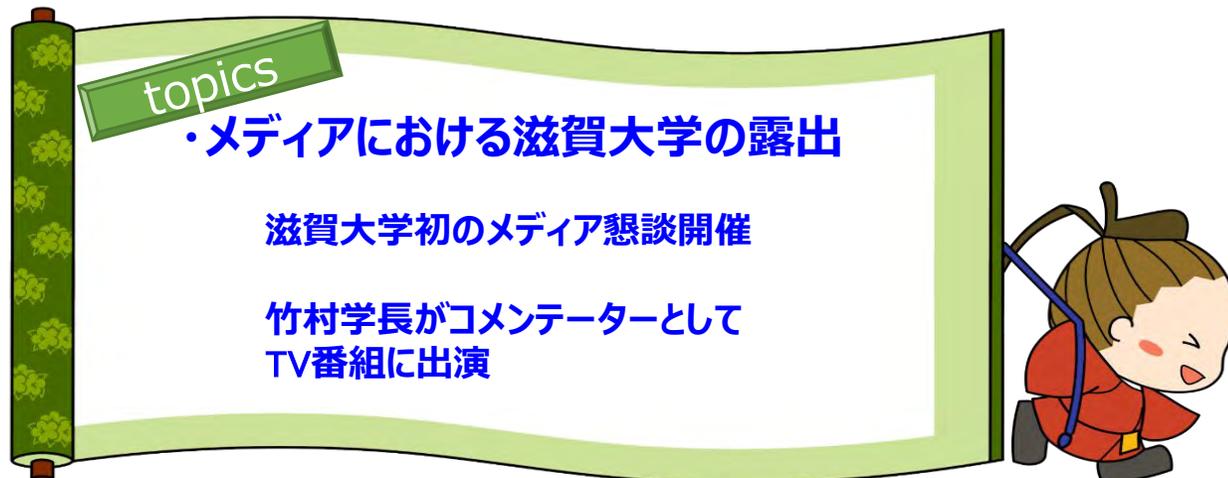


学生広報サポートチーム等

**滋賀大ブランド構築、 滋賀大ファン増大へ
受験生・産学公連携・寄付金等外部支援獲得**



記事件数	令和6年度	令和5年度
	12月末時点	12月末時点
大学ホームページ	459	470
新聞（含むネット）	247	326
テレビ	14	23
雑誌	32	44



第3期のイノベーション構想 教育:55 経済45 DS:30(35)の人員シーリング(計130名)
 削減進行中 高度情報専門人材育成事業 41を構想(増員分は授業料収入増加等で対応)

教育・経済学部機能確保・向上(教育・研究の質保証)
 全学的機構が担当する教育・研究支援の質確保・向上

他方で、財政的制約: 現在の経済環境・賃金上昇トレンド
 ⇒ 大きな人件費上昇圧力

現状 約170名の教員(外部資金での雇用者を除く)
 第三期イノベーション構想の計画人員 130名

改革遂行のための人材活用の組織・枠組みの案の検討

①多様な人材の活用

- ☆ 柔軟で多様な人事制度 クロスアポイントメント制度等外部との交流…活用拡大が課題
- ☆ 研究力強化のための人事制度 卓越教員制度等の新設

②経営人材育成

- ☆ 基本方針案を策定

③教育研究組織の在り方

- ☆ 3学系+5機構+1センターによる運営の点検

☆ 附属学校改組計画の着実な実施

令和8年より、幼稚園、小学校のクラス数の削減を開始し年次計画で進行させていく。あわせて教員数についても順次削減。

① 目標計画進捗管理

- ☆ 中期計画 進捗状況の点検 ⇒ 暫定評価報告(平成8年6月提出)に向けての点検と評価のための体制検討
- ☆ 教員個人評価 教員による自己点検報告書 提出率100%
- ☆ 自己点検評価報告会の充実に向けて 外部アドバイザーの参加
- ☆ 経営協議会・自己点検評価報告会などの機会にいただいた意見に対するフィードバックの枠組み整備

② ガバナンス・内部統制など

- ☆ ガバナンスコード適合状況報告、内部統制報告、内部質保証、監事監査意見書、といった諸機会での点検の着実な履行

その他

① 人権・コンプライアンス

- ☆ 人権委員会での事案対応
- ☆ ハラスメント研修会の実施

② リスク管理

- ☆ リスク管理体制の再確認(南海トラフ地震臨時情報)、安否確認システム導入の方針を確認
- ☆ リスク事象の定期的な状況確認と情報共有の枠組み整備
- ☆ 「いじめ重大事態」 第三者委員会報告に向けての対応

③ その他

- ☆ 統合報告書作成、IR活動

令和6年度学長裁量経費及び補助金について

学長裁量経費

基本理念

- 「令和4年度以降の予算編成の基本方針（令和4年3月18日役員会承認）」（抜粋）
 - ・第4期の中期目標・計画に盛り込んだ「未来創生大学」実現に向けて、本学が教育研究や社会との協働による社会変革の駆動的役割を十分果たしていく
 - ・学長のリーダーシップのもと、「未来創生大学」実現に向け、「ミッション実現戦略分」を含めた学長裁量経費を確保する。
- 学長の構想等を実現するための取組を推進する経費

財源及び配分方針

令和6年度予算：329,291千円

運営費交付金「ミッション実現戦略分」(31,679千円)
 基幹運営費交付金積算上の学長裁量経費(100,608千円)
 学内配分(200千円)、目的積立金(196,804千円)

ミッション実現戦略事業 約34,000千円

社会的なインパクトの創出につながる事業

- ・対象部局：中期目標・計画担当部局である主担当の学部・機構（3学部・5機構）

配分額：	1年度当り配分額	1学部当り(研究科含)	1機構当り
		7,000千円+a※	2,000千円

※別途、成果指標に基づく学部インセンティブを配分
 (令和6年度は1学部当り1,000千円程度)

- ・事業期間：6年間（期間中は上記配分額を基本的に継続して配分）
- ・対象事業：中期目標・計画に基づいた社会的なインパクトの創出につながる事業を対象
- ・要求方法：対象部局において「対象事業」に該当する6年間のロードマップを指定
 (令和5年度以降は、原則要求不要)
- ・採択後：毎年の進捗については、自己点検・評価WGにおいて、特色ある取組や優れた成果等の特記事項を含め、中期目標・計画の進捗管理をもって確認
 社会的インパクトについては、中間(4年目終了時)及び期末(6年間終了時)に国により評価され、第5期中期目標期間の配分に反映

戦略的プロジェクト 約99,000千円

①事業実施責任者の要求の中から学長が選定する事業

- ・要求者：事業実施責任者は部局長
- ・事業期間：1年(複数年にわたる支出が想定される経費には留意)
- ・対象事業：補助金や外部資金等の獲得に繋がる事業や戦略的取組事業を対象
- ・留意事項：1部局長当り1事業程度まで
 内容及び金額については厳選すること
- ・採択後の評価等：実績報告書に基づき確認

②学長自らが企画する事業

目的積立金事業 約197,000千円

戦略的教育研究機能強化事業

- ・イニシアティブ棟、データサイエンス創造研究棟新営事業(彦根)
- ・総合研究棟改修及び特別支援学校改修(石山・あかね)等



補助金

財源	事業名等	R6予算額	事業期間
国立大学法人情報機器整備費補助金	「GIGAスクール構想の推進」	61百万円[R5補正]	
デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業	データサイエンス×経済・教育(DS×E2)高度専門人材養成プログラム	56百万円	R4~R9 総額約309百万円
国立大学経営改革促進事業	データサイエンス・AI領域を核とした学術研究×人材育成×産官学連携による社会変革を目指す経営改革事業	116百万円	R5~R8 総額約443百万円
大学・高専機能強化支援事業	未来創生のための価値創造の担い手=滋賀大学高度データサイエンス・AI専門人材育成機能強化事業	153百万円	R5~R14 総額約1,880百万円
地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業	教育データサイエンス / ICT / DX活用による地域教育の転換と地域教員マインドの醸成	22百万円	R6~R10 総額約66百万円
人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業	データ×アーツ×国際連携による新たな総合知に基づくビジネス・インサイト養成プログラム	40百万円	R6~R11 総額約200百万
人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金	オープンアクセス加速化事業	90百万円	

令和7年度運営費交付金の概算要求等について

令和6年度予算

令和7年度予算

〔ミッション実現加速化経費〕

〔ミッション実現加速化経費〕

教育研究組織改革分

教育研究組織改革分等

【組織整備】 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点 (データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター)の形成」 (継続：日本人教員3名、事業推進費(URA2名相当含))	58,725千円
(拡充：日本人教員1名、事業推進費)	14,975千円
【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』に おける、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 (継続：プロジェクト経費)	48,000千円
(拡充：プロジェクト経費)	2,000千円

【組織整備】 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点 (データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター)の形成」 (継続：日本人教員4名、事業推進費(URA2名相当含))	73,700千円
(拡充：日本人教員1名、事業推進費(URA1名相当含))	32,975千円
全学的戦略経費 <small>※文科省による新たな事項</small>	9,892千円
【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』に おける、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 (継続：プロジェクト経費)	50,000千円
(拡充：プロジェクト経費)	12,000千円
【附属学校機能強化分】 <small>※文科省による新たな事項</small>	5,987千円

ミッション
戦略分

ミッション
戦略分

各法人が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、
その戦略的な強化に取り組むことを後押しするための必要な経費
31,679千円

※本経費は、第4期中期目標期間中、原則令和4年度の予算額で固定
31,679千円

〔共通政策課題分〕

〔共通政策課題分〕

数理・データサイエンス・AI教育強化分
「未来社会牽引DSエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校)
73,000千円

数理・データサイエンス・AI教育強化分
「未来社会牽引DSエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校)
66,500千円

基盤的設備等整備分
措置なし
0円

基盤的設備等整備分
情報基盤システム(リース費用相当分)
※文科省による新たな事項
19,212千円

合計 228,379千円

合計 301,945千円

I 令和6年度の進捗状況と点検・評価

①適切な施設の維持管理

(膳所) 附属小学校トイレ改修

(石山) 保健管理センター分室環境改善

(彦根) 土魂商才館屋根改修



(膳所) 附属小学校トイレ改修

[着工前]



(膳所) 附属小学校トイレ改修

[着工前]



(彦根) 土魂商才館屋根改修

[着工前]



(膳所) 附属小学校トイレ改修

[施工状況]



(膳所) 附属小学校トイレ改修

[施工状況]

令和6年度における施設整備等について

②教育・研究環境の整備

(あかね) 特別支援学校改修 (Ⅱ期)	【令和7年3月完成予定】
(石山) 自然科学棟改修 (Ⅱ期)	【令和7年2月完成予定】
(彦根) イニシアティブ棟新営	【令和7年2月完成予定】
(石山) 人文・社会教育棟改修 (Ⅰ期)	【令和7年度実施予定】
(膳所) 基幹環境整備 (空調設備)	【令和7年度実施予定】
(膳所) 基幹環境整備 (電気設備)	【令和7年度実施予定】
(彦根) データーサイエンスみらい創造館新営	【令和8年度中完成予定】



(あかね) 特別支援学校改修 (Ⅱ期)
【令和7年3月完成予定】



(石山) 自然科学棟改修 (Ⅱ期)
【令和7年2月完成予定】



(彦根) イニシアティブ棟新営
【令和7年2月完成予定】

③施設の有効活用 (講義室の稼働率) 令和6年度 44.7%

④省エネルギーの推進 (LED化の推進) 令和6年度 60%

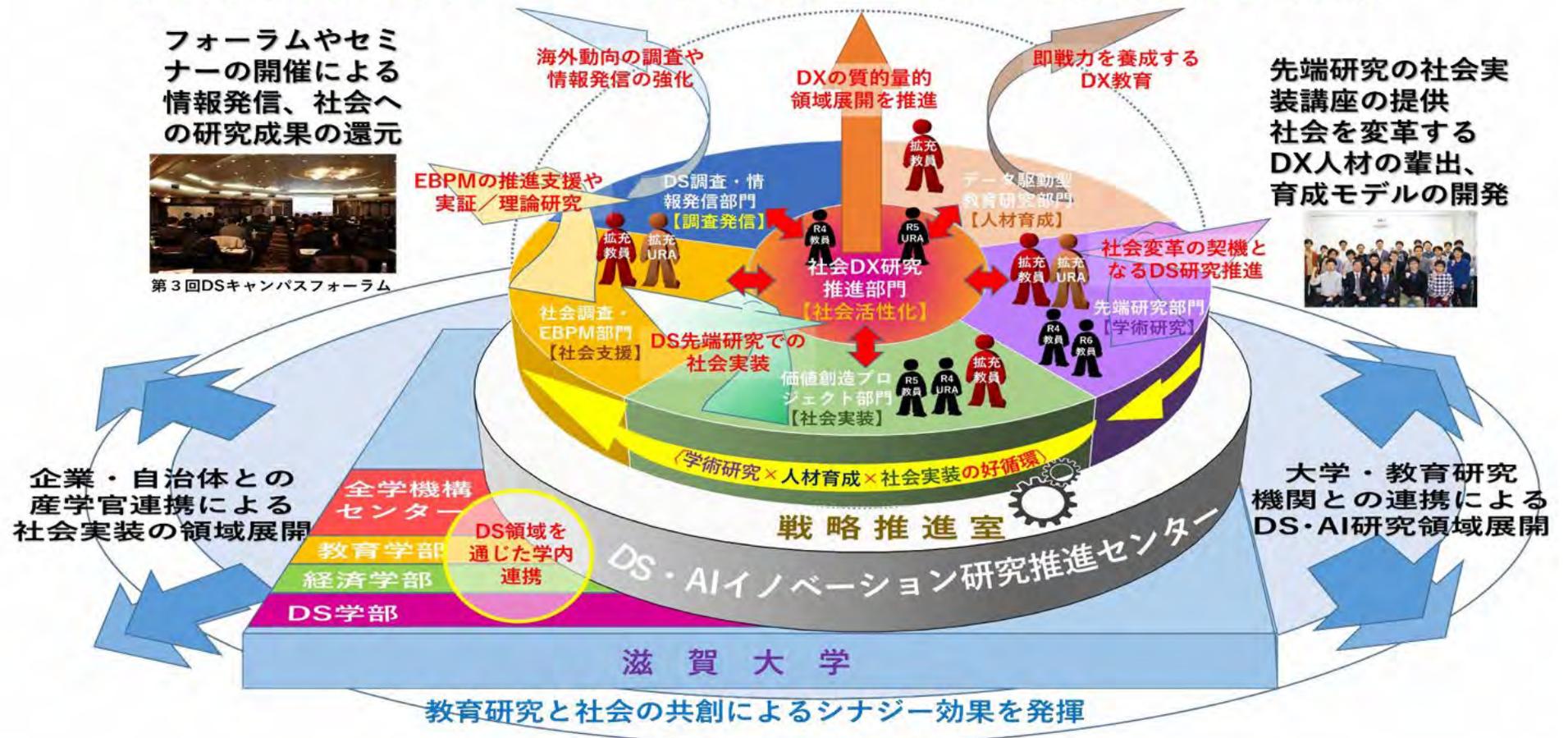
II 令和7年度以降に向けての課題と取組

施設整備費補助金等により、老朽施設の改修が進められてはいるものの、非常に多く発生する施設・設備の不具合や、各部局からの工事要望はすべて対応できない状況である。このことからキャンパスマスタープランの見直しを行い、整備状況の確認を進めており、施設・設備の老朽状況を把握したうえで中期的な維持・補修計画を立案し、不具合箇所の補修を行う事後保全から、不具合の発生前に改善を進める予防保全への転換が求められる。また、衛生設備については附属学校・大学を問わず和式トイレのみの建物もあることから、環境改善を行ううえで早急な対策が必要である。

加えて、一般照明用蛍光灯の製造・輸出入の廃止は2027年度末と決定していることから、順次、LED化の整備を進める必要がある。以上により、限られた予算を有効かつ効果的に活用する必要があると考えている。

データサイエンスで世界を変える

滋賀大学DS・AIイノベーション研究推進センターを核とした全学体制



- 世界で最も影響力のある研究者トップ2%に本学研究者が選出
 - ・ データサイエンス学部: 清水 昌平 教授
 - ・ データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター: 周 暁康 客員准教授

- 新たに社会調査・EBPM研究部門 (部門長: 佐藤 正昭 教授)を開設
 - ・ 研究基盤を拡充し、社会課題解決に向けた取り組みを加速させる
 - ・ センター全体の受託・共同研究契約額の12%を占めるまでに成長

- 共同研究の推進
 - ・ 日立建機、エイチ・ツー・オー リテイリング、富士通、SGシステム、JR東海等との77件のプロジェクトが進行中

- 経済学部、教育学部との機動的連携 (兼務19名)
 - ・ サカイ引越センター、トヨタ・コニック・アルファ、fm craic、等 11件の企業連携案件

- 特任教員の拡充と活用
 - 特任教員14名を新たに採用し、特任教員37名の体制に拡充。
 - ・ 製造業・流通業など23件の企業連携案件に参画

- イニシアティブ棟の設置(2025年)
 - ・ オープンイノベーション創出拠点形成
 - ・ 連携企業、研究者、大学院生が研究交流を行う交流の場

◇NSIC

“Variable selection for additive models with missing data via multiple imputation”
 (Shimazu, Yamaguchi, Hoshina and Matsui)
 Behaviormetrika誌

Behaviormetrika
<https://doi.org/10.1007/s41237-024-00236-3>

ORIGINAL PAPER



Variable selection for additive models with missing data via multiple imputation

Yuta Shimazu¹ · Takayuki Yamaguchi² · Ibuki A. J. Hoshina³ ·
 Hidetoshi Matsui² 

Received: 30 December 2023 / Accepted: 24 June 2024
 © The Behaviormetric Society 2024

Abstract

We present a method for variable selection for additive models under the condition that the predictors have missing values. The multiple imputation is used for missing data completion, and then the sparse estimation is applied to the additive model for variable selection. Multiple imputation random lasso (MIRL) is a method that combines multiple imputation and aggregation of the sparse estimators of the bootstrap samples, which is applicable to both low- and high-dimensional linear regression problems for data with missing values in predictors. In this work, we extend the MIRL so that it can appropriately select variables in the additive model. The nonlinear structure of the additive model is expressed by basis expansions, and their coefficients are estimated via the group lasso regularization. We call the proposed method multiple imputation random group lasso (MIRGL). We numerically verify the effectiveness of the proposed method through the analysis of simulation and real data.

Keywords Additive model · Lasso · Missing data · Multiple imputation · Stability selection

引用: Behaviormetrika (2024.6)

◇JSSRC

"Multi-Stage Evolutionary Model Merging With Meta Data Driven Curriculum Learning for Sentiment Specialized Large Language Modeling"
 (Inoshita, Zhou, Kawai)
 : The 10th IEEE International Conference on Data Science and Systems, Dec 2024

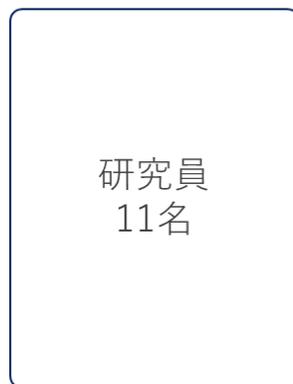


IEEE Best Paper Awardを受賞

◇DEMLC

卒業生・博士まで拡大して共同研究員としてセンターに参画する好循環システムの構築

2023年 共同研究体制



研究支援者 26名	所属	人数
	修士課程	12名
	学士課程	13名
	卒業生	1名

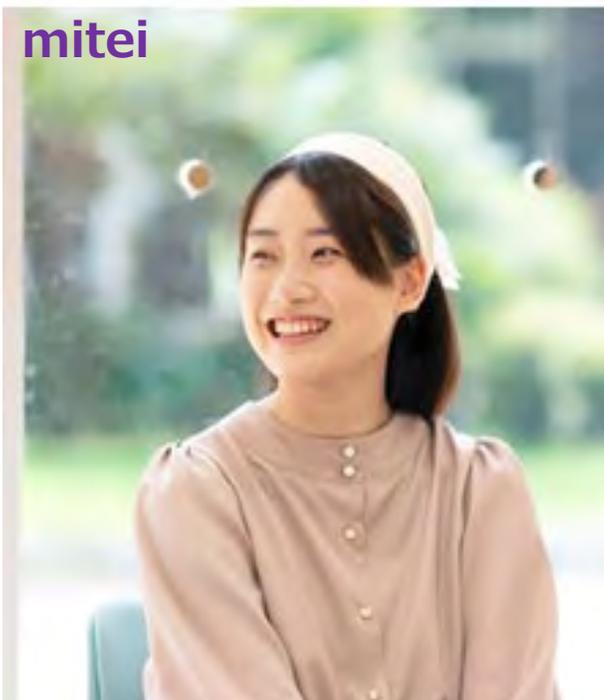


2024年 共同研究体制



研究支援者 30名	所属	人数
	博士課程	1名
	修士課程	13名
	学士課程	14名
	学外研究員 (卒業生)	2名

◇企業ニーズに応じて大学発ベンチャーの育成・連携強化を加速: 10件



ミラカン



ディナレツジ



連携企業例

- ・ mitei : 地銀協会
- ・ mitei & 近江テックアカデミー : 運輸業B社
- ・ mitei & ディナレツジ : 日立建機ティエラ
- ・ ディナレツジ : サカタインクス

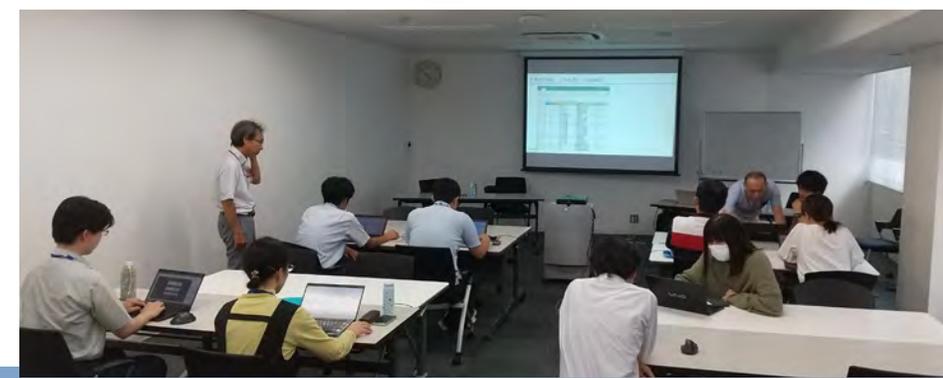
MOOC教材を活用したリスキングニーズへの対応



関西みらい銀行で企業研修として導入



— 大学生のためのデータサイエンス —



NISSHA データマネジメント研修

◇共同研究による特許出願数の増加

	件数	備考
2021年度	1件	あいおいニッセイ同和損保（笛田）
2022年度	1件	タキイ種苗（飯山）
2023年度	0件	—
2024年度	4件	A社（ファム）、B社（高柳） C社（大平）、D社（青木）

◇知財取り扱いガイドライン案の作成

目的：企業に対して本学の基本方針を示し、業務の効率化と標準化を図るため

<ガイドラインの骨子>

- 費用負担 ⇒ 基本は企業が全額負担
- 持分 ⇒ 発明の寄与率に準じて決定
企業が希望すれば、本学持分の譲渡も可能
- ロイヤリティ ⇒ 企業が販売した場合にロイヤリティ（実施料）を要求
- 本学の実施 ⇒ 教育・研究でフリーに使える

生成AIへの取り組み（NTTデータとの先端研究）

背景: RFPは、企業がIT企業から具体的な提案を求めるための文章。発注者と受注者が初期段階で情報や要件について共通の理解を持つことで、問題を未然に防ぐことを目指す。RFP受領後、RFP診断を行うことが多い。

目的: RFP診断の効率化と精度向上を目指し、生成AIの活用による内容解析を実施。従来の専門家の視点に加え、LLM（大規模言語モデル）の技術を適用。

DATA INSIGHT NTT DATAの「知見」と「先見」を社会へ届けるメディア

NTT DATA

業界トレンド/展望

技術トレンド/展望

事例

2024.12.16
技術トレンド/展望

超上流ドキュメントの生成AIによる自動チェック事例

お客さまが求めるシステムを構築するには、超上流と呼ばれる工程において、お客さまと開発者間で認識を合わせる事が重要である。認識が合わないまま開発を始めると、仕様変更や作り直しなど、あらゆる面で問題が発生する。すなわち超上流工程での取り組みが品質確保の第一歩と言える。

超上流工程においてお客さまの要望を把握するには、開発者はRFP（Request for Proposal：提案依頼書）を正しく理解することが重要となるが、専門知識やRFPのあるべき姿を理解する必要がある、誰もができるものではない。NTT DATA品質保証部では、長年RFPの診断を実施しノウハウを蓄積してきた。本記事では、蓄積したノウハウと生成AIを組み合わせて、誰もがRFP診断を実施できる仕組みを構築した事例を紹介する。

Profile



NTTデータグループ社 技術革新統括本部 品質保証部
中尾 公俊

基盤系製品評価および社内への技術展開に従事した後、公共、金融、法人系のシステム開発に参画。現在は品質保証部にて第三者チェック組織メンバーとして方式チェックに従事。

引用

<https://www.nttdata.com/jp/ja/trends/data-insight/2024/1216/>

◇グローバル化の進展を目指し、セミナーへの講師招聘・国際シンポジウムの開催・海外大学との連携協定(協力覚書)等を積極的に実施

・ DSセミナーへの外国人講師の招聘

第154回: Hongjin Ren
(Nanjing University of Science and Technology)

第159回: Marvin Lasserre
(Inria Centre, Bordeaux University)

第166回: Carlos A. Casanova
Pietroboni
(National Technological University)

など7名

・彦根データサイエンスシンポジウム2024
(因果推論に関するソウル大学との共同シンポジウム: 2024年5月)



・ソウル大学データイノベーション科学研究所
と学術交流協定(MOU)締結: 2024年6月

◇お茶の水女子大学、金沢大学、和歌山大学、琉球大学と共同で**数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）人文・社会科学系モデルシラバスを策定（2024年3月）**

◇その他の活動

・数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの拠点校として、特定分野会議（人文・社会科学系）を開催（2024年6月）

・「生成AIに関するFDワークショップ」を実施(コンソーシアム会員校や教育関係者など約40名が参加)（2024年8月）

・大阪成蹊大学・滋賀大学・兵庫県立大学の共催による「3大学データサイエンスシンポジウム」を開催（高校生や教育関係者、企業、自治体関係者など約120名が参加）（2024年8月）

・滋賀大学彦根キャンパスにて、OLIS-滋賀大学保険フォーラムを開催（金融データ活用推進協会、住友生命保険相互会社あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社日本総合研究所から講師を招聘し43名が参加）（2024年10月）

公開シンポジウムにて周知・講演

2024年7月8日 東海ブロック

2025年1月29日 近畿ブロック

2025年2月10日 北信越ブロック

2025年2月18日 北海道ブロック

2025年3月22日 九州・沖縄ブロック



参加費 無料

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム
北信越ブロック 第5回シンポジウム [ブロック代表校 金沢大学]

人文・社会科学系 応用基礎レベル

モデルシラバスと 取組事例の紹介

Zoomによる
オンライン開催
[定員: 300名]

2025
2.10 [月]
14:30-17:10

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの特定分野会議（人文・社会科学系）では、令和6年3月に「数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）人文・社会科学系モデルシラバス」を公開しました。モデルシラバスを取りまとめた滋賀大学の青木高明先生よりご説明いただき、内容の理解を深める機会とします。
また、令和6年度応用基礎レベルの認定を受けた大学の経験談や課題解決型学習（PBL: Project Based Learning）の取組事例をご紹介いたします。
本シンポジウムを通じて、応用基礎レベルの認定にチャレンジする大学等が増加することを期待します。

14:30 [開会挨拶]
森本 竜治 金沢大学理事、副校長、大学改革、教育、情報担当、副学長

14:32 [開演]
「文系学部の高専基礎レベル認定へ、モデルシラバスとPBL史の巻の紹介」
青木 高明 滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター副センター長、データサイエンス学部 准教授

15:33 [質疑応答]
近山 英輔 長 奈良国際情報大学経営情報学部情報システム学科 教授

15:53 [質疑応答]
井上 博行 長 徳島大学教育、人文社会情報学部門グローバルIS領域 准教授

16:15 [質疑応答]
徳野 淳子 長 福井県立大学情報センター 副センター長、教授
村田 和也 長 福井県立大学情報センター 准教授

16:33 [質疑応答]
廣生 朝 金沢大学総合研究開発部社会科系 准教授

16:53 [質疑応答]
谷内 通 金沢大学数理・データサイエンス・AI教育センター 長

17:05 [閉会挨拶]

【主催】北信越ブロック代表校 金沢大学数理・データサイエンス・AI教育センター
【共催】数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 特定分野会議（人文・社会科学系） 担当拠点校 滋賀大学

申込URL: <https://forms.gle/813267550>
申込締切: 2025年1月27日（月）正午まで

主 催: 滋賀大学国際高等教育国際連携データ科学イノベーション教育研究センター（CREDS）
後 援: 経済産業省 北信越経済産業局（中野）
お問合せ: 第九オメガシステム株式会社 kenyu@9omega-original.co.jp
〒250-0292 滋賀県彦根市彦根1-1-1 第九オメガシステム株式会社 第九ビル4階



数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム

<コンソーシアム会員校限定> <公開シンポジウム>

第一部 近畿ブロック会議 16:00-16:45

第二部 近畿ブロック公開シンポジウム 17:00-18:30

開催日時 2025.1.29 [水]
16:00-18:30
(開始10分前に入室可)
※終了時間は変更の可能性あり

実施方法 Zoom（ウェビナー）による
オンライン開催

定 員 300名

第一部 近畿ブロック会議
コンソーシアム会員校限定の参加が可能です。
※2025年1月27日（月）正午まで

第二部 近畿ブロック公開シンポジウム
「関西におけるDX推進の取組について」
経済産業省 近畿経済産業局 関西経済連合会
「文系学部からの情報提供」
滋賀大学 青木高明 准教授
「京都市女子大学におけるpaizaラーニングを活用した情報リテラシー教育」
京都女子大学 小倉直樹 准教授
paiza株式会社 小倉直樹 部長
第九オメガシステム株式会社 第九ビル4階

申込URL: <https://business.ferm-mailer.jp/forms/71ae813267550>
申込締切: 2025年1月27日（月）正午まで

主 催: 滋賀大学国際高等教育国際連携データ科学イノベーション教育研究センター（CREDS）
後 援: 経済産業省 北信越経済産業局（中野）
お問合せ: 第九オメガシステム株式会社 kenyu@9omega-original.co.jp
〒250-0292 滋賀県彦根市彦根1-1-1 第九オメガシステム株式会社 第九ビル4階

<https://www.kyodai-original.co.jp/wp-content/uploads/2025/01/069d1bc44a4d318986b3b9a537f3e92c.pdf>

「社会調査・EBPM（証拠に基づく政策立案）研究部門」を新設し(2024年8月)
より地域の社会課題に対応できる全学体制を構築



部門長: 佐藤 正昭 先生



副部門長: 伊達 平和 先生



和泉 志津恵 先生



太田 拓紀 先生



田中 勝也 先生



奥村 太一 先生



堀 兼大朗 先生



石川 祐実 先生



佐野 和子 先生



松原 悠 先生

専門分野:

公的統計・社会学・統計科学・統計教育・教育社会学・環境経済学・
空間データ解析・心理統計学・テスト理論・健康経済学・開発経済学・災害科学 など

・社会調査・EBPMに関する受託共同研究額はセンター全体のおよそ**12%**まで成長
・令和7年4月には1名を増員を予定し、さらなる体制の強化を進行中



1. 教育活動

- Society5.0時代の教員養成課程の構想「教員養成・研修機能の強化」
- 文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」
教育データサイエンス/ICT/DX活動による地域教育の転換と地域教員マインドの醸成
シンポジウム「これからの『滋賀型』学校教育をけん引する教員養成」の開催
- 教育実習の充実、北部地域（彦根市、長浜市、米原市）での実施に向けた準備
- 入試改革、高大連携の強化
- 滋賀県教育委員会との強固な連携

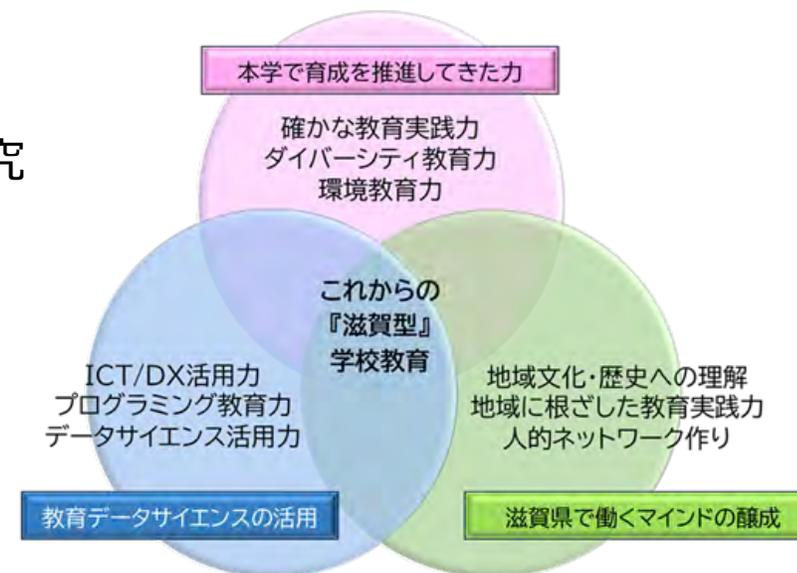
2. 研究活動

- 地域共同研究、自治体・教育機関・企業・団体等と協働した研究
- データサイエンス教育に関わる共同研究

3. 学生支援

- 新入生歓迎イベント、開学祭、学園祭の通常実施
- 就職支援の充実
- ラーニングコモンズの有効活用

4. 教育学部150周年に向けた取り組み



1. 教育活動

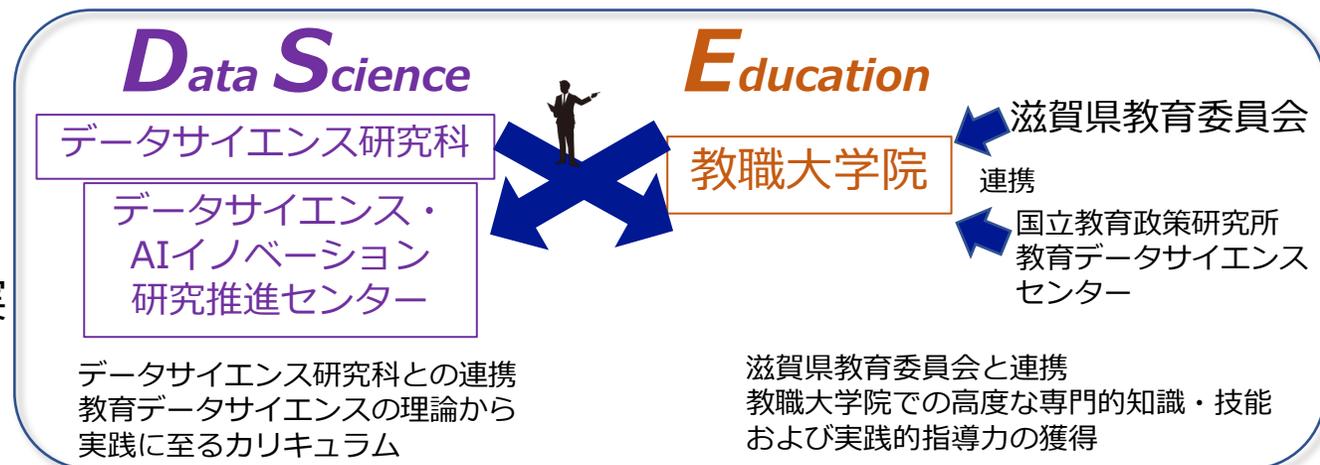
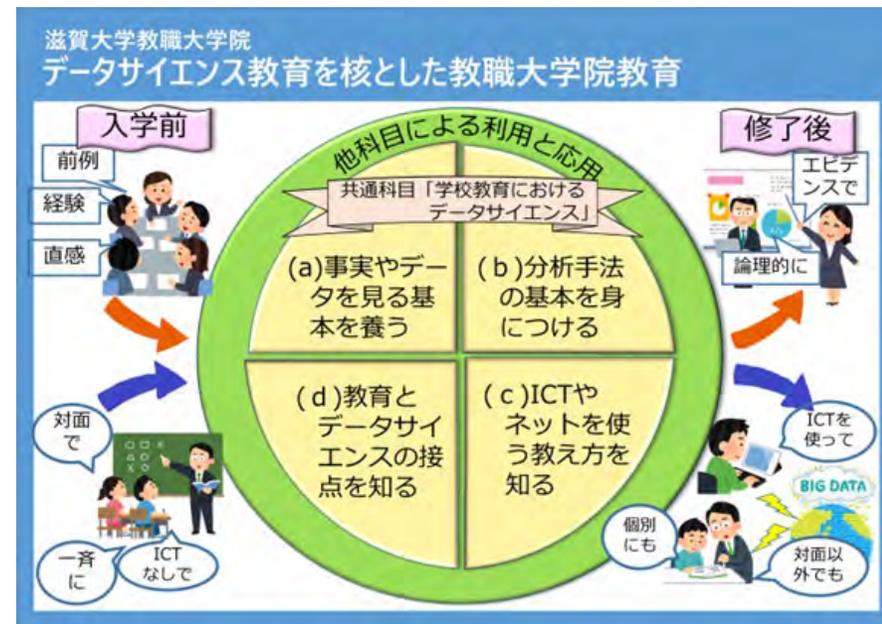
- 教職大学院担当教員の増加、研究者教員と実務家教員の協働
- データサイエンス教育の充実
 - 「教育データサイエンス人材育成プログラム」
(デジタルと掛けるダブルメジャー大学院構築事業～Xプログラム～)
- 滋賀県教育委員会との強固な連携

2. 研究活動

- 滋賀県総合教育センターとの連携強化
 - 附属教育データサイエンス実践センターの充実
 - 研究発表大会における院生の発表
- データサイエンス教育の成果と課題の整理

3. 学生支援

- 就職支援
- 教員と現職教員学生による0年次研修の充実



1. 附属学校園

- 学部と連携・協力した実践研究
- 教育委員会や自治体と連携した先導的・実験的な教育実践
- 多様な児童生徒に対する教育実習・教育体験制度の改善に向けた取組
- 巡回指導等の特別支援と学生学習支援ボランティアの活用
- 附属小学校150周年に向けた取組
- 附属幼稚園・小学校の改組開始

2. 教育実践総合センター

- 学生支援：教育実習支援、就職・キャリア教育支援
- 地域連携：共同研究事業、石山プロジェクト、出前講義、高大連携事業

3. 音楽教育支援センター

- アウトリーチ事業、インリーチ事業、指導者研修会、パイロットプログラム
- 文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」や多くの外部資金による自
- 学部および教職大学院での授業における活用

4. 教育データサイエンス実践支援センター

- 教育データサイエンスの研究と教育・研修

教師力養成サークル 教師のたまご
 参加者募集について
 2023.10.30 滋賀大学教育学部 附属教育実践総合センター

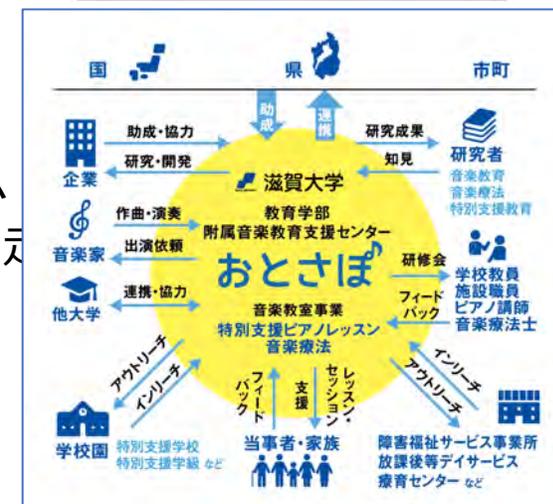
附属教育実践総合センターでは、地域実習指導を担当しているセンター教員の自主企画として、「教師力養成サークル 教師のたまご」を立ち上げます。
 活動は下の3つのグループで過ごし、それぞれ別々に参加者を募集します。参加はあくまで自由、複数のグループを重複して参加することも可能です。途中退会も自由です。活動は、学生が主体的に教師力の向上を目指して行うものであり、センター教員はその支援者として指導や助言を行う形式でおこないます。

グループA: 授業力UP (活動は月1-2回程度)
 対象: 1年生~4年生(通年)
 教師としての専門性が求められる場合は、やはり授業。このグループでは、「やってみよう」を合言葉に指導案の作成や模擬授業を通して、授業力UPに繋がっていきます。
 また、授業におけるICT機器の有効活用についても共に学び、操作方法を含めた実践的指導力を向上させていきます。

グループB: 受かる力UP (活動は必要回数)
 対象: 3年生 (11月~翌年8月)
 (翌年教採受験予定の2回生も参加可)
 教師への道を拓くためには、是非とも採用試験に合格したいもの。このグループでは、志を共にする仲間が集まり、情報共有はもとより小論文や面接の練習を通して「受かる力」の向上に努めていきます。

グループC: 即戦力UP (活動は8回程度)
 対象: 4年生(11月~翌年3月)
 正規採用、講師採用の区別なく、卒業後4月から即学校現場で働く4回生に対し、**学級経営や学習評価、教員としての心構え**について具体的な講習を盛り交ぜながら教員としての即戦力UPにつながる講話や不安を払拭するための相談などを行っています。

★参加希望者は、登録専用Formに必要事項を記入の上、申し込んでください★



1. 教育内容と実施体制

- 学部・教職大学院・連合博士課程の一体的な運営
- 教育プログラムの充実：Society5.0時代の教員養成課程「教員養成・研修機能の強化」
「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」
高大連携の充実、入試改革の実施、地域教員プログラムの整備
滋賀県北部（彦根、米原、長浜）での教育参加体験の開始
ICT /DXを活用した学校間連携（大学・附属学校・地域小中学校）
- 教職大学院「教育データサイエンス人材育成プログラム」
- 附属学校園改組

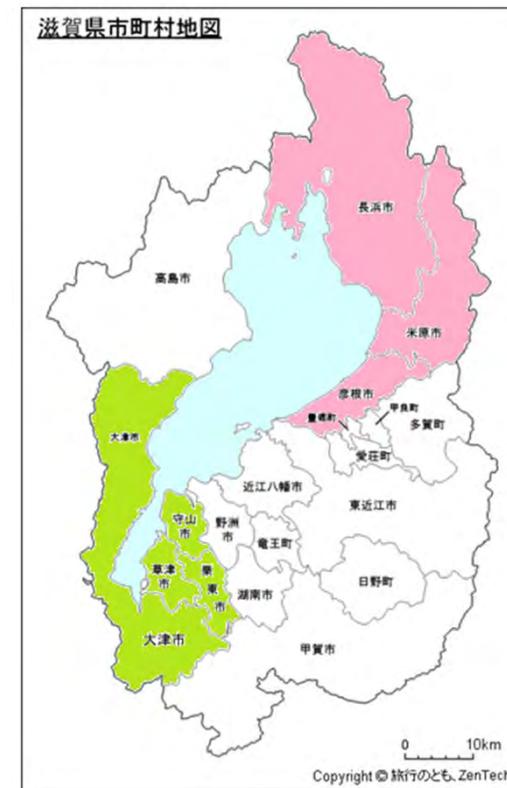
2. 研究活動

- 地域が求める教育課題についての共同研究と成果の発信
- 学部と附属学校の連携と学部教育への反映

3. 学生支援

- 教師インターンシップの検証と充実

4. 教育学部・附属小学校150周年事業

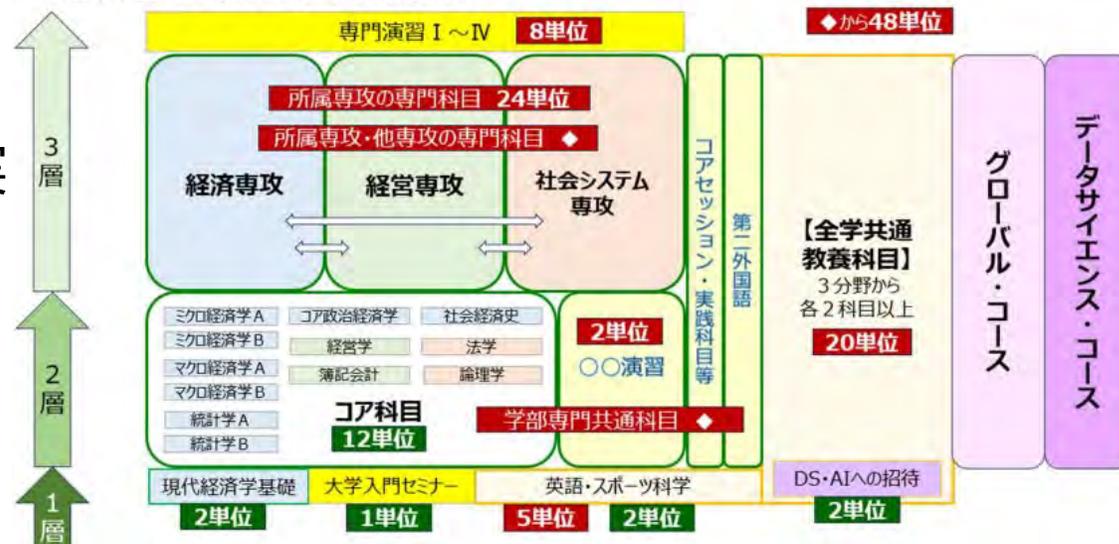


<https://www.bing.com/images/>
(一部改変、2024年12月22日閲覧)

① 教育における取組み

- (a) 学部改組（レイトスペシャライゼーション）
- (b) 経済学部におけるデータサイエンス教育の充実
- (c) グローバル人材育成機能の強化
- (d) 「専門演習」の多様な実践
- (e) 資格取得等報奨制度等

3層構造カリキュラム（卒業要件）



② 入学者選抜と広報活動

- (a) 令和6年度入試
- (b) 入試広報

③ 彦根高商百周年

	定員	志願者	倍率	受験者	合格者	入学者
総合型選抜	18名	27名		24名	24名	24名
学校推薦型選抜	A 40名	83名	2.1倍	83名	40名	40名
	B 20名	52名	2.6倍	52名	21名	21名
一般選抜	322名	2476名		1313名	392名	327名
前期・国外	86名	349名	4.1倍	301名	101名	91名
前期・数外	86名	354名	4.1倍	309名	99名	84名
後期・国外	75名	742名	9.9倍	308名	94名	79名
後期・数外	75名	1031名	13.7倍	395名	98名	73名
私費留学生	10名					12名
夜間主コース	50名	344名		343名	91名	58名

④ 研究にかかわる取組み

(a) 研究成果の公表

(b) 論文報奨金制度 国際学術雑誌に論文6本掲載

(c) 公開講座等

- ・公開講座 …テニス、野球、フィットネス
- ・公開授業 …古文書読解、経営数学、言語と文化
- ・**オンライン公開講座 (MOOC教材)**

デジタルヒューマンと音声合成による先進的試み

(d) 滋賀大学の運動施設を利用した社会貢献活動

(e) 未来創生人財養成講座

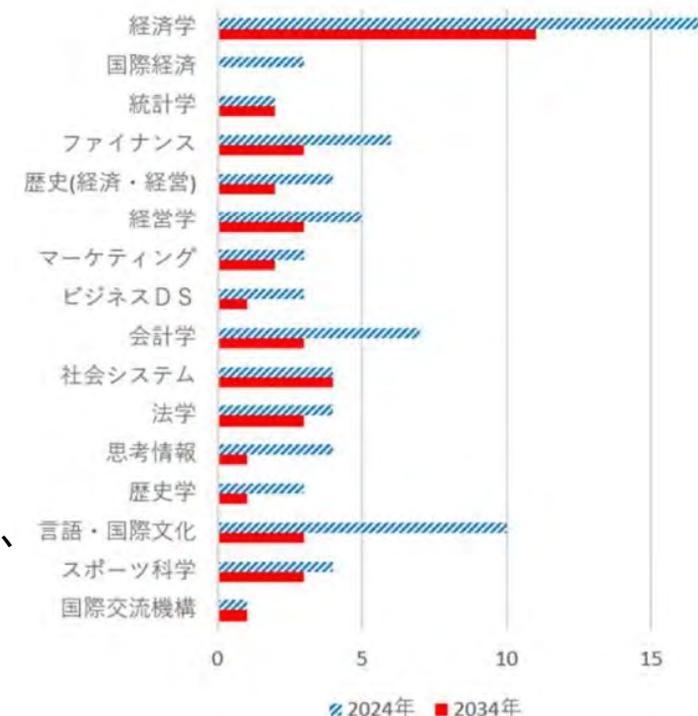
多様な専門分野10名による講義とワークショップ

(f) 多分野にわたる社会貢献活動 110件 滋賀県内13市町、府県
滋賀労働局、農林水産省、公正取引委員会、国土交通省、財務省、裁判所、
経済産業研究所、日本学術振興会、日本学生支援機構の委員・・・

〈課題〉 ・カリキュラムの維持・改善を可能にする教員数計画の検討



経済学系教員 2024年・2034年



入学者選抜

- ・志願者増（前年対比20名増）

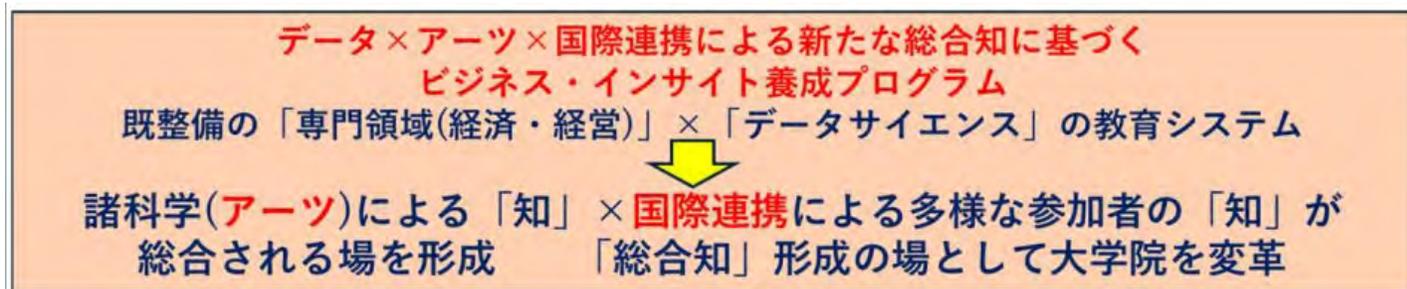
経営分析学専攻(MBAN)

- ・定員6名
- ・入学者11名(うち派遣社会人9名)
- ・入試広報のための企業訪問 46社
- ・滋賀大学データサイエンスキャンパスフォーラム 第4回（6月6日） 第6回（10月25日）

	定員	志願者	入学者
博士前期課程	32名	61名	29名
学部・大学院5年一貫プログラム		1名	1名
台中科技大学ダブルディグリープログラム		2名	2名
博士後期課程	3名	3名	2名

「データ×アーツ×国際連携による新たな総合知に基づくビジネス・インサイト養成プログラム」

2024(令和6)年度～2029(令和11)年度



〈課題〉

- ・内部進学者、リスキリングを求める社会人などへの訴求
- ・複雑な履修制度の改善、カリキュラムや開講形態の見直し

➤ 経済学研究科 **経営分析学専攻** 2024年4月に開設

MBANのための経済学研究科科目

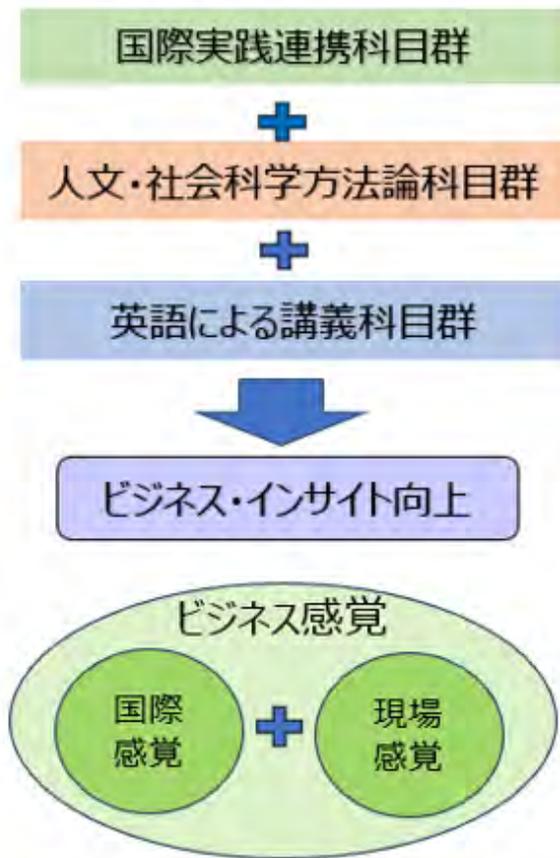
DS必修科目 4単位 DS選択科目 6単位以上 指導教員(主1 + 副2)



➤ 経済学専攻、経営学専攻

- ・「**ビジネス・データサイエンス専修プログラム**」(1年制、社会人) DS必修科目 4単位
- ・「**データサイエンス副専攻**」 DS必修科目 4単位 + DS選択科目 4単位以上

〈略称〉BIプログラム



多様な人文・社会科学の「知」を統合して「ビジネス・インサイト」を涵養する

ビジネス・インサイト養成プログラム (2025~2029年度)

専攻修了要件	経済学研究科			BIプログラム
	経済学専攻	経営学専攻	経営分析学専攻	
展開科目 10 単位以上 自専攻展開科目 6 単位以上	「アート思考ビジネスデザイン特講」「歴史学方法論特講」「哲学特講」			人文・社会科学 方法論科目群 6 単位以上
	「マクロ経済学特講Ⅰ」 「マクロ経済学特講Ⅱ」 「欧米経済史特講」	「経営人類学特講」		
	「日本経営史特講」 「ダイバーシティマネジメント特講」		「ビジネスエシックス 特講」	
	「マイクロ経済学特講Ⅰ」「マイクロ経済学特講Ⅱ」 「社会学特講」「行動科学特講」 「日本社会史特講Ⅰ」「日本社会史特講Ⅱ」			
自専攻・他専攻の展開科目				
	「Business CommunicationⅠ」「Business CommunicationⅡ」 「Academic WritingⅠ」「Academic WritingⅡ」 「Special Lecture on Business Insight」 「Applied International Economics」			英語科目群 6 単位以上
基礎科目 6 単位まで*	「Business and Economic History」「Microeconomic Analysis」 「Principles of Business Management」 「Society and Social Science」「論理学」「近江商人経営論」			英語科目/ 人社方法論
連携実践科目 2 単位以上	「海外研修Ⅰ(台湾)」「海外研修Ⅱ(S.V.)」【BI選択必修】 「ワークショップⅠ~Ⅳ」「ワークショップⅤ~Ⅷ」 「経営・コンサルティング特別講座Ⅰ」「経営・コンサルティング特別講座Ⅱ」 「グローバル・ビジネス概論Ⅰ」「グローバル・ビジネス概論Ⅱ」 「コンサルティング各論」「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」			国際連携 実践科目群 8 単位以上
演習科目	4 科目 8 単位必修 (経営分析学専攻は 5 科目 10 単位必修)			
論文	修士論文又は特定課題研究			
単位合計	36 単位以上			

* 経営分析学専攻では「基礎科目」は修了単位に含まれない。

A. 附属史料館

- ① 近江商人・近江系企業の史資料をはじめとする収蔵史資料の調査・研究
- ② 国宝「菅浦文書」についての共同研究への協力
- ③ **附属史料館における史資料の収集と公開、研究成果の発信** →
- ④ 県内外の研究・教育機関および各自治体との連携に基づく史資料の活用と地域貢献
- ⑤ **附属史料館の国際化対応** フロリダ大学、啓明大学、チェンマイ・ラジャパット大学等外国人来館者48名に見学案内・英語版パンフレット配付
- ⑥ **学内資源保護を目的とした活動**



B. 経済経営研究所

- ① **リスク研究部門** ジョイントセミナー 3回
- ② **先端研究部門** 先端研究セミナー 6回 **ラウンジセッション** →
- ③ **未来社会研究部門** 創発研究 講演会 7回
未来パラダイム研究「放課後あそび場プロジェクト」12回

- 〈課題〉
- ・書庫、閲覧室のカビ問題
 - ・所蔵史資料の管理体制の見直し協議



先進AI教育で時代をリード

- 生成AI
- 画像・テキスト・音声データ
- 高次元の潜在表現

他に類を見ない「扱うデータの種類」の広範化

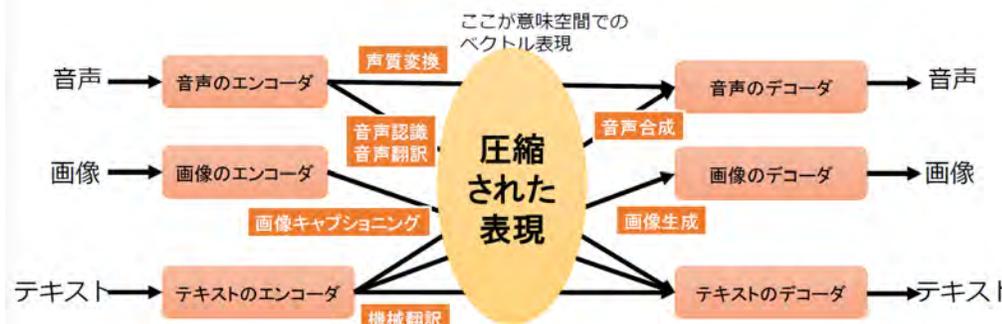
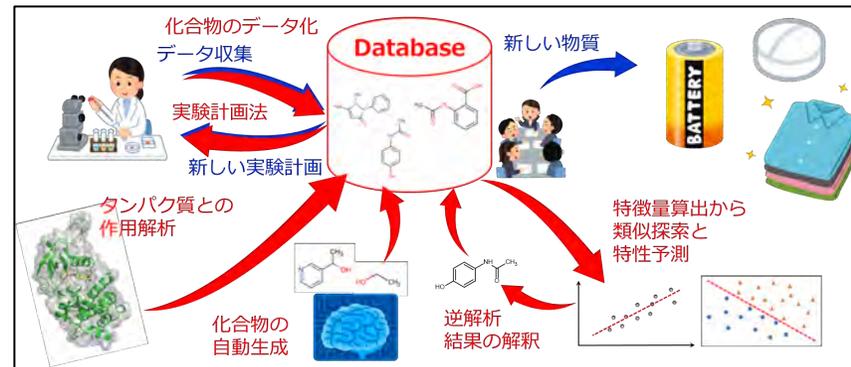
- 音楽・アートデータ
- 気象データ
- 化学データ
- ネットワークデータ
- スポーツ・ゲーム・ロボット (今後)

豊富で充実した企業連携

- 企業データ、リアルデータ
- 企業からゲスト講師
- 企業への報告会

文理融合教育でDS教育を実質化

- ビジネスデータサイエンティスト育成
- 全員への統計教育
- PBL重視



新しい入試制度

- 共通テスト不要の総合型選抜
- 総合型選抜に女子枠の創設
- 後期日程の一般選抜に学力検査を共通テスト3科目だけとした「面接型」を導入
- 高専卒業生向け編入学試験を開始

広告戦略

- 名古屋地下鉄車内広告（2024/08）
- 共通テストの問題が掲載される新聞紙面の下部に広告
- 高校生向けのダイレクトメール（ハガキ）
- 教員の紹介動画（fromページ・サイト）

高大連携

- DXハイスクール支援

滋賀大学データサイエンス学部は AI時代の即戦力を育成します

POINT

01

データサイエンス学部
入学定員を 100名 → **150名**

POINT

02

多様な選抜方法を導入

【総合型選抜出願期間】 令和6年9月2日(月)～9月6日(金)

受 験 タイプ	総合型選抜 I (一般枠)	総合型選抜 I (女子枠)	一般選抜 前期日程	一般選抜 後期日程	一般選抜 後期日程
	共通テスト不要	共通テスト不要		【個別学力検査型】	【面接型】 共通テスト3教科のみ
定 員	20名	20名	70名	30名	10名

※上記内容は計画中のものであり、今後変更する場合があります。詳細は滋賀大学ウェブサイトをご確認ください。

国立大学法人



滋賀大学

- 院生との共同執筆による学会発表・論文発表 → 1年当たり50件を越える発表。国際会議での受賞も。

学生への高度な教育の成果。本学のアカデミック面でのプレゼンス向上

- 文部科学省「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援」事業（ハイレベル枠）採択に伴う定員増（博士前期課程 50名→80名）

R7年度入試実績：早期特別入試(33名/定員30)、一般入試(26名/定員20)、
派遣社会人入試(20名/定員30) + 3月募集
博士後期課程(6名/定員3)

入試説明会・ネットメディアでの広報・**企業訪問(31社)**による広報活動

- 院生への経済支援

DS研究科奨学制度

DS博士後期課程学生フェロースhip事業

金銭的な憂いなく学業に集中してもらう環境整備

- R7以降の課題

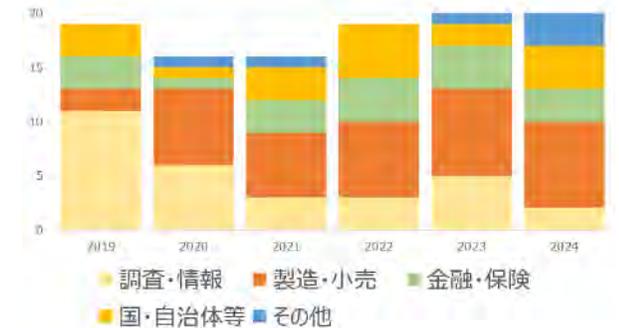
- 内部進学率向上・派遣社会人増に向けた広報活動

- 内部生向け進路説明会、企業訪問の継続

- プレマスタ教育・カリキュラムの見直し

- 生成AIの発展、DSへの多様なニーズに対応した見直し

派遣元企業等の業種比率



学生構成の多様性

奨学金制度

滋賀大学大学院データサイエンス研究科奨学制度

支援内容・・・入学年の1年間に対する奨学金の給付(年額100万円)

採用人数・・・10名程度(入学試験成績優秀者)

対象・・・早期特別入試、外国人留学生入試、一般入試志願者全員(派遣社会人除く)を対象とします。

NEW 滋賀大学データサイエンス博士後期課程学生フェロースhip事業

支援内容・・・奨学金等の給付(年額約240万円を予定)※一部学生アルバイトとしての支給を予定

採用人数・・・若干名

対象・・・申込時に、日本学術振興会特別研究員制度への申請をしていること、

当該結果が不採択、かつ順位がB以上であること 等

学部卒業生の進路状況

◎ とても順調

- ・ シンボリックには、日本IBM、大塚商会、富士通、パナソニック、IHI、トヨタ、京セラ、島津製作所といった伝統的な大手情報・製造

◎ 幅広い業種：情報通信関係・製造業だけでなく、流通、金融、運輸、建設など。

- ・ シンボリックには、花王、ブリヂストン、住友金属、SCREEN、TOTO、ニトリ、平和堂、三菱UFJ、セブン銀行、住友生命、大同生命、明治安田生命、佐藤工業、日本航空、JR西日本
- ・ 学部からコンサルティング（アクセンチュア、インテージ）あり
- ・ 公務員も2機関

◎ 大学院への進学も2割超

- ・ 本学DS研究科、東大、阪大、京大、名大、東工大、東京医科歯科大（現：東京科学大）

研究科（修士）修了生の進路状況

◎ すばらしく順調

◎ 情報通信業に強み

- ・ シンボリックには、NTTデータ、伊藤忠テクノ、日本総研、野村総研、楽天

◎ 製造業に強み

- ・ シンボリックには、トヨタ、住友ファーマ、日東電工、グローリー、日本ピラー

◎ 金融、流通、運輸、コンサルティングなど幅広い業種をカバー

- ・ シンボリックには、三井住友銀行、三菱UFJ銀行、アマゾン、阪急電鉄、あいおい損保、SMBC日興証券、アクセンチュア（6名）

◎ 博士進学 2名



SHIGA UNIVERSITY